

春を待つ

作詞 伊藤整 作曲 多田武彦
Piano 編曲 土肥永津子

ふんわりと 雪の積った山陰から
冬空が きれいにきれいに 晴れ渡っている
うっすら寒く 陽は暖かい
日向ぼっこする 睫の先に ぼっと 春の日の夢が咲く
しみじみと 陽の暖かさは 身にしむけれど
真白い雪の山こえて 春の来るのはまだ遠い

ふきのとう

作詞 林学 作曲 林学 編曲 林光

ふきのとう ふきのとう ひとつ芽を出した
短い足で背伸びする あれは妹よ
冷たい風で 目を覚まし 首をすくめた ふきのとう

ふきのとう ふきのとう ふたつ芽を出した
白い帽子を夢に見た これは私だよ
帽子は白い雪の山 首をすくめた ふきのとう

ふきのとう ふきのとう みつつ芽を出した
朝日が少し暖かい あれは母さんよ
深い雪の吹き溜まり 丸い背中の ふきのとう

ふきのとう ふきのとう あとは何処に居る
暗い朝の雪明り あれは父さんよ
歩いていった雪の道 大きな背中の ふきのとう

たんぼぼ

作詞 星野富弘 作曲 平野淳一

何時だったか 君たちが 空を飛んでいくのを見たよ
風に吹かれて 君たちが飛ぶのを見たよ
ただひとつの物を持って 旅する姿が
うれしくて ならなかったよ
人間だって どうしても 必要な物は ただひとつ
私も 余分な物を捨てれば
空が飛べるような 気がしたよ

シルクロード

作曲 喜太郎 編曲 本並美徳 林保雄

遠き道を たずね来て 歌え 旅人よ
異国の空も 故郷の空も 透き通る
風の中で 光る青さよ
ひとつに連なる大地の歌よ
いにしえ人が 命をかけて 築いた道よ
この道を 踏みしめて行くよ
諸人 喜び 悲しみ 互いに背負い
安らぎの国を目指し 歌え踊れよ
未来に広がる ひとつの道

鶯(前線にも春が来た)

作詞 A.ファチャーノフ 作曲 V.ソロヴィヨフ=セドイ
訳詩 東大音感合唱研究会

春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな
来たよ春が来た 前線にも春が来た
だけど勇士らは 眠らず聞き入る
たたかいを忘れ 歌ううぐいすに

春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな
うぐいすは 春をひとり歌ってる
勇士たちは今 懐かしい声に
遠いふるさとを 眠らずに思う

春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな
休む勇士らよ あすもたたかいへ
愛する妻残し 遠く離れても
勝利はまじかに 帰る日も近い
春を歌う うぐいすよ 勇士らの夢やぶるな

鶴

作詞 R.ガムザトフ 作曲 Ya.フレンケリ
編曲 I.リツベンコ
訳詩 坂山やす子 男声版編曲 本並美徳

私はふつと思う 傷つき帰らぬ兵士ら
異国の土に眠り いつしか白い鶴に
鶴は昔から今も 訪れては声伝う
それゆえか いつも切なく 声もなく 空見守る

日暮れの霧の空を 疲れた渡り鳥飛ぶ
あの列の中の 隙間は もしや 私のために
やがて 鶴の群となり 青い夕もやを 飛び立とう
大空へ 鶴の言葉で 世の人々 しのびつつ

埴生の宿

訳詩 里見義 作曲 H.R.ビショップ 編曲 増田順平

埴生の宿も わが宿 玉のよそおい うらやまじ
のどかなりや春の空 花はあるじ 鳥は友
おお わが宿よ たのしとも たのもしや

文読む窓も わが窓 瑠璃の床も うらやまじ
きよらなりや 秋の夜半 月はあるじ 虫は友
おお わが窓よ たのしとも たのもしや